新時代に対応した高校授業改革推進事業（指導と評価研究部門）

③学習指導案（公開授業で使用したもの）

高鍋高等学校 地歴科公民科

○「ICT を活用した授業」（　公開授業 ①　）

・指導案１

地理歴史科（世界史探究）　　学習指導案	宮崎県立高鍋高等学校 地歴公民科　　河野　彰
単元名	西アジアと地中海周辺の歴史的特質
内容のまとまり	B　諸地域の歴史的特質の形成　／　（3）諸地域の歴史的特質 (ｱ) 東アジアと中央ユーラシア　　(ｲ) 南アジアと東南アジア　　(ｳ) 西アジアと地中海周辺
１．単元の目標	（知識・技能） ・西アジアと地中海周辺の諸国家，キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。 （思考・判断・表現） ・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けして読み解き，西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色，キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現すること。（学びに向かう力，人間性等／主体性） ・西アジアと地中海周辺の歴史的特質の形成について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求する。

２．単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
西アジアと地中海周辺の諸国家，キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けして読み解き，西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色，キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。	西アジアと地中海周辺の歴史的特質の形成について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求しようとしている。

３．指導と評価の計画

単元 ： 西アジアと地中海周辺の歴史的特質（指導計画）		
第一次	イラン地域	①アケメネス朝　②パルティアとササン朝　③イラン文明
第二次	ギリシア地域とヘレニズム時代	①ポリスの成立と発展　②ポリス社会の変容 **③ヘレニズム時代（本時）**　④ギリシア・ヘレニズム文化
第三次	ローマと地中海支配	①共和政期のローマ　②帝政期のローマ　③ローマ文化　④キリスト教の成立とローマ
第四次	イスラーム教の成立とイスラーム世界の形成	①イスラーム教の成立とイスラーム化 ②イスラームを基盤とした国家の形成（ウマイヤ朝・アッバース朝） ③イスラーム政権の多極化
第五次	ヨーロッパ世界の形成	①ゲルマン人の移動と地中海周辺地域の変容 ②東西ヨーロッパの形成（ビザンツ帝国とフランク王国） ③ローマ=カトリック教会と西ヨーロッパ ④外部勢力の侵入と封建社会

単元 ： 西アジアと地中海周辺の歴史的特質（指導計画）

（○「評定に用いる評価」／●「学習改善につなげる評価」）

【単元を貫く問い】

①「西アジアと地中海周辺は，社会（政治・経済），文化（思想・宗教）の面で，どのような特徴を持つ地域なのであろうか。」
②「これらの特徴が，現代の社会とどのように結び付いているのであろうか」

次	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価基準等
		知	思	態	
第一次 （２時間扱）	【ねらい】 a ：イラン系の人々や諸国家の特徴を理解する。 b ：イラン系の人々や諸国家と周辺地域との関わりと，その影響を理解する。 【 問い 】イランに興亡した諸国家の特徴はどのようなものであろうか。				
	・地図を基に，オリエントが統一される推移を把握する。 ・前２世紀と２世紀の地図を元に，東西交流の状況を把握する。 ・３世紀から６世紀にかけての国際情勢を把握する。	○	 ● ●		・アケメネス朝の統治の特徴を理解している。 （民族統治・中央集権化） ・東西交流の実態や影響を理解している。 ・ササン朝と周辺勢力との関わりを理解している。 （対立・交流／文化面）
第二次 （４時間扱）	【ねらい】 a ：ポリス社会の特徴を，今日の社会と比較しながら理解する。 b ：戦争と政治，社会や民族意識の結びつきを理解する。 c ：ギリシア・ヘレニズム文化の特徴や，現代との結びつきを理解する。 【 問い 】ポリス社会を中心とした古代ギリシアと現代社会は，どのように結び付いているのであろうか。				
	・ポリス社会の形成・発展・衰退の推移を整理する。 ・アテネとスパルタの特徴を対比してまとめる。 ・アテネの民主政治の発展・衰退の推移を整理する。 ・アレクサンドロスの東方遠征及びその後の帝国統治の特色を把握する。 ・ギリシア文化とヘレニズム文化の特徴を対比してまとめる。	 ○ 	● ● ○ 	 ●	・ポリス社会の変容を理解している。 （階級，役割と権利などの相違点） ・民主政治の発展につながる諸改革の相違点を理解している。 ・ペルシア戦争の歴史的な意義を理解している。 ・ヘレニズム世界（時代）の特徴と周辺地域への影響を理解している。 ・ギリシア，ヘレニズム文化の特徴と後世との結びつきを理解している。
第三次 （５時間扱）	【ねらい】 a ：古代ローマの特徴と，現代社会との結びつきを理解する。 b ：共和政期，帝政期のローマ社会の特徴を理解し，政治・経済・社会面の差異に気付かせる。 （階級対立と権利，戦争とその影響，支配領域の拡大） c ：ローマ文化の特徴や，現代との結びつきを理解する。 d ：キリスト教の成立とローマ帝国との関係を理解する。 【 問い 】古代ローマと現代の社会は，どのように結び付いているのであろうか。 視点‥‥政治・経済／文化（思想・宗教）／民族（言語）／領域等との結びつき				
	・共和政期のローマで見られた歴史的な事象を，時系列に沿って整理する。 ・ローマ社会の変質とその影響を把握する。 ・帝政期のローマで見られた歴史的事象を，主な皇帝に沿って整理する ・これまで学習した諸宗教とキリスト教の相違点を整理する。		● ●	 ●	・共和政，帝政それぞれの時代のローマ社会がどのように発展したか，その推移を，政治面，領土の拡大等の側面から理解している。 ・ローマ文化の特徴と後世との結びつきを理解している。 ・キリスト教の特徴やローマ帝国との関係を理解している。
第四次 （４時間扱）	【ねらい】 a ：イスラーム世界の形成とその特質について理解する。 b ：イスラーム教の成立と，その後のイスラーム化の進展を理解する。 c ：イスラーム教の特徴を，仏教とキリスト教と比較する中で理解する。 d ：イスラーム国家の形成と各王朝の特徴を理解する。 【 問い 】イスラーム教とはどのような宗教なのであろうか。 視点‥‥政治・経済／文化／民族（言語）／領域等との結びつき。				
	・イスラーム教成立以前の西アジア情勢を振り返り，内陸・海上の貿易路	●	●		・イスラーム教と他の宗教の相違点を理解している。 ・イスラーム化の進展を，地理的・民族的視点から理解してい

	の特徴を把握する。 ・イスラーム教団の発展の推移を把握する。 ・イスラーム化の進展を，非イスラーム世界との関係に留意しながら，地図上で認識していく。		○ ●		る。 ・ウマイヤ朝とアッバース朝の相違点を理解している。（統治・民族政策等） ・非イスラーム世界との関わりを，戦争や貿易などを元に理解している。
第五次 （５時間扱）	【ねらい】a：キリスト教を中心としたヨーロッパ世界の形成とその特質について理解する。 b：ビザンツ帝国とフランク王国の形成・発展，関係を理解する。 c：西ヨーロッパ世界とローマ=カトリック教会との関係とその影響を理解する。 d：外部勢力とヨーロッパ世界の関係とその影響を理解する。 【 問い 】東西ヨーロッパとはどのような特徴を持った地域なのであろうか。 視点‥‥政治・経済／宗教／民族（言語・領域）				
	・現在のヨーロッパにおける，民族や言語，宗教分布に着目する。 ・ゲルマン人の大移動の状況を地図上で把握する。 ・フランク王国の発展を，ローマ=カトリック教会との関係と結びつけながら，時系列的に整理する。 ・カール戴冠の歴史的な意義を様々な観点を踏まえて表現する。 ・フランク王国とビザンツ帝国の領域的特徴を，現代の地図と照合しながら，関係性を探る。	● ●	● ● ● ●		・ヨーロッパの中世社会の特徴を理解している。（キリスト教と封建制度） ・キリスト教と政治・社会の結びつきを理解している。 ・フランク王国の成立・発展・衰退の推移を理解している。 ・ビザンツ帝国の発展と周辺地域との関係を理解している。 ・ノルマン人やイスラーム勢力がヨーロッパ世界に及ぼした影響を理解している。（政治・経済面） ・西ヨーロッパの封建社会の特徴について理解している。

地理歪史科（世界史探究）　学習指導案

宮崎県立高鍋高等学校
地歴公民科　　河野　彰

単元名	西アジアと地中海周辺の歴史的特質　（B　諸地域の歴史的特質の形成）
本時の主題	「ヘレニズム時代の世界史的な意義」 （アレクサンドロスの支配とヘレニズム世界） 問い（例）：「ヘレニズム時代と現代社会との結びつき」
日　時	令和５年　９月　２９日（金）　３校時
場　所	宮崎県立高鍋高等学校　第６講義室（第２棟２階）
対象クラス	２年１組　選択生（９名）
本時の目標	（知識・技能） ・アレクサンドロスの東方遠征に始まるヘレニズム時代の特質を理解する。
	（思考・判断・表現） ・アレクサンドロスの東方遠征の背景や結果・影響に着目して，ヘレニズム時代の社会や文化の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現する。 ・地図や写真といった図版，文献等の諸資料を関連付けて読み解く。
	（学びに向かう力・人間性等／主体性） ・ヘレニズム時代の世界史的な意義を学ぶことで，現代におけるよりよい社会の実現のために継承できる理念や価値観などを主体的に追求する。

本時の指導計画

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価の観点 ・評価方法
導入 (5)	①主題の確認と，「問い」（案）の提示 ・現代の社会と結び付く事例を示す ・「問い」に関連する概念・理念を示す	・学習に向けて見通しを立てさせる ・授業の最後に「自分なりの『問い』」を各自で立てることを確認する	主体性 （行動の観察）

		・興味や関心を喚起し，学びに向かう姿勢を高めさせる	
展開１ (20)	②アレクサンドロスの活動を理解する ・東方遠征の推移を理解する ・帝国統治の特色を理解する ③ヘレニズム時代の変遷を理解する ・地中海地域と西アジア地域の関係や，その他の地域との結びつきを理解する	・ギリシアに関わる対外関係を振り返る ・民族政策の有り様を，既習事項や現代の課題と関連付ける ・時代の変遷や領域的な特徴など，推移に関わる視点に着目させる ・文化の特徴に結び付けられるように配慮する	知識 思考・判断 (行動の確認) ※発問対応 ※記述整理
展開２ (20)	④ヘレニズム文化の特徴を理解する ・東西文化が融合して形成，発展したことを理解する ・普遍的な性格を持つことを理解する	・既習事項（オリエント文明・ギリシア文化）と対比させる。 ・他地域に対する影響や，現代の生活や文化等との結びつきに着目させる	知・思・判 (行動の確認) ※発問対応 ※記述整理
まとめ (5)	⑤導入時に示した「現代の社会の事例」が，ヘレニズム時代とどのように結び付いているかを確認する ⑥「自分なりの『問い』」を立て，それに対して自分なりの考えをまとめることを指示する	・導入時に示した「問い」に関連する概念や理念をキーワードとして用いることを条件付ける ・事例との結びつきについて，自分なりの見解を述べさせる。	主体性 (行動の確認)

・指導案２

高等学校　第２学年　地理歴史科学習指導案

日 時	令和５年９月２９日（木）第４校時	指導者	宮崎県立高鍋高等学校　指導教諭　中川美貴子
対象生徒	第２学年１組２組（男子２２名，女子１４名）		
科目名	日本史探究	使用教科書	山川出版社　詳説日本史
単元名	第II部 中世　　第５章 院政と武士の躍進		
単元の目標	・院政期から武家政権成立期における歴史の展開を踏まえて，貴族政治の変容と武士の政治進出，土地支配の変容などを基に，古代から中世への時代の転換について，資料から得られる情報を活用しながら考察し，表現することができる。 ・中世の特色について，権力の主体の変化，東アジア諸国との国際関係，経済・文化への対応などに着目し，古代の社会と比較しながら，多面的・多角的に考察し，表現することができる。		

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価基準	・貴族政治や土地制度の変容などを基に，古代から中世の国家・社会の変容を理解する。知識１ ・武士の政治進出，平氏政権の成立の背景について，宋との交易や文化との関わりにも着目しながら理解する。知識２	・古代から中世への転換について，武士が台頭する契機や，この時期の土地制度の仕組みなどに着目することで多面的・多角的に考察し，表現する。思考１ ・武家政権成立の背景となる武士の土地所有の保証に至る変化を，土地の支配や所有がもつ意味に着目して多面的・多角的に考察し，表現する。思考２	・中世社会の特色と時代の転換について，権力主体の変化，東アジア諸国との関わりなどに着目し，前の時代との比較などを通して，時代を通観する課題を設定し，課題を主体的に追及しようとしている。態度

指導と評価の計画　　○「評価に用いる評価」　●「学習活動につなげる評価」

	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価基準等
		知	思	態	
第一次 2時間扱	【ねらい】古代から中世への転換がおこった要因と中世の特徴について理解する。				
	【単元を貫く問い】院政の登場は，政治，社会，経済，文化にどのような影響を与えたのだろうか。				
	【第一次の問い】後三条天皇の登場によって，権力の主体や土地支配の形態はどのように変化したのだろうか。				
	課題a 後三条天皇が摂関家にはばかることなく政策を進めることができた理由について，史料や家系図を用いて考察する。		●		●資料から課題aにつながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
	課題b 延久の荘園整理令によって成立した荘園公領制の特徴について，図を読み取りながら考察する。		●		●文章で整理した内容と図式化された情報とを結びつける技能が身についている。
	【第二次の問い】白河天皇が院政を開始したのはなぜだろうか。また，摂関政治と院政にはどのような類似点と相違点があるだろうか。				
	課題c 院政の仕組みを整理し，摂関政治との比較を行う。	○	○		○課題cを考察する中で，既習内容を的確に活用することができる。
	課題d 院政はどのような者たちに支持されたのか，その理由を含めて考察する。		●	●	●課題dに対する問いに対して，提示された資料と，既習内容とを活用し，協働的な学びを通じて見い出そうとしている。
	課題e 上皇はどのようにして権力を強め，そのことが貴族政治をどのように変質させたのかを，史料をもとに読み取り，考察する。		●		●資料から課題eにつながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。

指導と評価の計画　　○「評価に用いる評価」　●「学習活動につなげる評価」

	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価基準等
		知	思	態	
第二次 2時間扱	【ねらい】古代から中世への転換がおこった要因と中世の特徴について理解する。				
	【単元を貫く問い】院政の登場は，政治，社会，経済，文化にどのような影響を与えたのだろうか。				
	【第三の問い】院政がもたらした弊害の背景にあったものは何だろうか。				
	課題a 院政を支えた経済的基盤や，仏教との関わりに着目し，院政がもたらした新たな課題や問題を考察する。		●	●	●新たに生じた課題や問題について考察し，仮説を表現できているか。

【第四の問い】奥州に独自の勢力が形成されたのはなぜだろうか。また，武士が中央の政治に関与するようになったのはなぜだろうか。				
課題ｂ 奥州の地理的位置や交易，産物，源氏との関係に着目して， 奥州藤原氏が繋栄を誇った要因について考察する。	●	●		●地図や，既習内容を活用しながら，課題に対する答えを見出そうとしているか。
課題ｃ 貴族社会の争いが，どのようなかたちで解決されるようになったのかを考察する。		●		●既習内容と結びつけながら，課題を考察しようとしているか。
【第五の問い】平氏政権と，それまでの貴族政治との違いは何だろうか。				
課題ｄ 平氏政権の特徴を，貴族的政権と武家的政権の両面から考察する。	○	○		○平氏政権の二面性について，既習内容も活用しながら，多面的・多角的に考察しようとしているか。
課題ｅ 平氏政権が，海運や貿易に影響力をもつことができた理由に着目し，そのことが社会や経済，文化に与えた影響について考察する。		●	●	●課題ｅについて，外交，交通，経済等に着目して考察し，その結果を表現しているか。
【第六の問い】 院政期の文化にはどのような特色がみられるだろうか。				
課題ｆ 新しく台頭してきた武士や庶民とその背後にある地方文化に着目し，仏教文化がどのように展開し，またどのような特色をもつ文化が形成されたのかを考察する。		●		●院政期の特色と関連づけながらこの時代の文化の特色を見出そうとしているか。

本時の学習指導

本時の学習目標	・人材登用や荘園整理など，後三条天皇が摂関家に遠慮せずに改革を進めることができた背景について考察し，院政という新しい政治形態へとつながっていったことを理解する。 ・院政の政治的特徴を理解し，院政期前後の土地支配形態に着目しながら，院政を支持したのがどのような者たちであったのかを理解する。 ・本時の学習課題について，Google 上やスクリーンで提示された資史料から的確に情報を取り出し，読み解くことができる力を身につける。

本時の指導計画

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入 10分	・古代がどのような時代であったのかを振りかえる。 （周囲との協働）	・政権の在り方，外交，経済基盤など様々な観点からの振りかえりを促し，どのような課題が生じていたのか気づかせるようにする。 ・時代が変わる際には様々な要因が絡んでくることに気づかせる。	・周囲と意見を出し合うことで，前時までの学習内容の定着を意欲的にはかろうとしているか。 ［態度］〈発言分析〉
	・新井白石の『読史余論』から，これまでの政権の変遷について考察する。 （周囲との協働）	・史料に記述されている内容と，既習内容を結びつけながら，政権の変遷を整理できるようにする。 ・「四変」を起こしたのが後三条天皇であることに気づかせる	・史料を的確に読み取ろうとしているか。〔知識〕〔思考〕〈記述分析〉 ・周囲と話し合いながら，平安時代までの政権の流れをつかもうとしているか。〔思考〕〈発言分析〉

展開 30分	・後三条天皇が「四変」を起こすことができた要因を考察する。（ペア学習） ・後三条天皇による親政の内容を整理する。（ペア学習） ・『百錬抄』から延久の荘園整理令について考察し，気づいたことをGoogle formに書き込む。 （周囲との協働） ・延久の荘園整理令によって成立した荘園公領制について，その仕組みや特徴を整理する。（ペア学習） ・「五変」にあたる院政が白河天皇によって開始されたことを理解し，院政の仕組みを整理する。（ペア学習） ・史料「扶桑略記」より，受領層がなぜ院政の支持基盤となっていたのかを考察する。（周囲との協働） ・史料「中右記」より，白河上皇が行った政治について考察する。（周囲との協働）	・天皇家と摂関家との関係を示した家系図から，後三条天皇と摂関家との関係に気づかせる。 ・荘園整理令に注目させ，史料から政策内容を読み取るよう促し，後三条天皇による荘園整理が効果をあげた理由についても考察させる。 ・教科書Ｐ７７の図を参考にしながら，荘園公領制の仕組みについてとらえさせ，荘園，公領とも同じような構造になっていったことに気づかせる。 ・史料中の「政上皇に帰す」の部分を，中学校までの学習内容を活用しながら読解できるよう促す。 ・資料集を用いて，院政の仕組みを整理させ，武士の登用については，当時の武士の台頭と関連づけながら考察させる。 ・院政を支持していたのがどのような者たちであったのかに気づかせる。 ・前時までの学習内容（地方政治の変容）との関連を示唆する。 ・上皇が法や先例にとらわれずに専制的な政治を行っていたことに気づかせ，それに対する評価についても考えさせる。	・史料を的確に読み取ろうとしているか。〔知識〕〔思考〕<発言分析> ・史料を的確に読み取り，政策の内容を自分の中で整理し，表現できているか。 〔思考〕<発言分析><記述分析> ・周囲との話を通じて，自分の考えを深めようとしているか。 〔思考〕〔態度〕 <発言分析><行動観察> ・授業で整理した内容と資料（図）とを関連づけて考察し，自分の考えを表現しようとしているか。 〔思考〕<発言分析> ・自分の考えを端的に表現できているか。〔知識〕〔思考〕<発言分析> ・協働的な学習から，自分の考えを深めようとしているか。 〔思考〕〔態度〕 <発言分析><行動観察> ・前時までの学習と本時の内容とをリンクさせながら考察を発展させようと努めているか。 〔知識〕〔思考〕<発言分析> ・史料から必要な情報を的確に見い出し，自分の考えを深めようとしているか。 〔思考〕〔態度〕 <発言分析><行動観察>
まとめ 10分	・古代から中世への転換についてGoogle form上に図で表す。（周囲との協働） ・時間に余裕があれば，各自が図式化したものを全体で共有する。	・ 政権担当の変化，土地支配形態の変化に注目しながら図式化するよう促す。	・様々な要因や背景が関係しながら時代の転換が起こることを理解し，自分の言葉で表現することができたか。 〔思考〕〔態度〕 <記述分析><行動観察>

・指導案３

高鍋高等学校　第１学年　地歴学習指導案

日　時	令和５年９月２９日（金）　第４校時	指導者	宮崎県立高鍋高等学校　教諭　本田　竜毅
対象生徒	第１学年２組（男子１６名，女子６名）		
科目名	地理総合	使用教科書	東京書籍　地理総合
単元名	１編　地図や地理情報システムでとらえる現代世界　第１章　私たちが暮らす世界		
単元の目標	・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に，方位や時差，日本の位置と領域，国内や国家間の結びつきなどについて理解する。 ・日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に，地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ・現代世界の様々な地理情報について，地図や地理情報システムなどを用いて，その情報を収集し，読み取り，まとめる基礎的・基本的な技能を身につける。 ・現代世界の地域構成について，位置や範囲などに着目して，主題を設定し，世界的視野から見た日本の位置，国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し，表現する。 ・地図や地理情報システムについて，位置や範囲，縮尺などに着目して，目的や用途，内容，適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し，表現する。		

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に，方位や時差，日本の位置と領域，国内や国家間の結びつきなどについて理解する。 知１ ・日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に，地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 知２ ・現代世界の様々な地理情報について，地図や地理情報システムなどを用いて，その情報を収集し，読み取り，まとめる基礎的・基本的な技能を身につける。 知３	・現代世界の地域構成について，位置や範囲などに着目して，主題を設定し，世界的視野から見た日本の位置，国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し，表現する。 思１ ・地図や地理情報システムについて，位置や範囲，縮尺などに着目して，目的や用途，内容，適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し，表現する。 思２	・地図や地理情報システムについて，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。 態度

内容のまとまりと小単元，各次の内容と配当時間例

内容のまとまり	小単元	各次の内容と配当時間例
A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1) 地図や地理情報システムと現代世界	①私たちが暮らす世界（３時間） （本時）	第一次　経度・緯度 地球儀と世界地図 日本の位置と領域

指導と評価の計画　本時（　３　）時間目／４時間　（○…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準等
1	**①【ねらい】緯度・経度が違うことによってどのような影響があるか理解する。**			
	・緯度が違うことにより年平均気温や日照時間が異なることを理解する。 **・経度が違うことにより時差が生じることを理解する。** **[学習課題：単元全体に関わる問い]「世界から見た日本の位置を理解しよう」**	知	●	**●緯度・経度が違うことにより様々な違いが生じることを理解している。［発言分析・記述分析］**
2	②【ねらい】地球儀や世界地図の特色を知る。 【学習課題】さまざまな種類の世界地図が存在するのはなぜだろうか。			
	・様々な種類の世界地図の特色を理解し，最適な地図を活用できる。	知 思	●	●様々な種類の世界地図の特色を理解した上で，使い分けができるようになっている。 ［発言分析・記述分析］
3	③【ねらい】日本の位置と領域について理解する。 【学習課題】日本の地理的な特色はどういう所だろうか。また，なぜ領土問題が生じるのだろうか。			
	・領域の概念を理解する。	知	●	●領域とはどのようなものから形成されていて，どのような役割があるのか理解している。［発言分析・記述分析］
	・日本の地理的な特色を理解する。	知	●	●他国と日本を比較し，日本にどのような特色があるか理解している。［発言分析・記述分析］
	・領域の重要性に気づく。	思	●	●海にある資源や竹島などの領土問題を踏まえ，領域の重要性について気づけている。［記述分析］
4	・世界一周旅行のスケジュールを立てる。 **[学習課題]　「世界から見た日本の位置を理解しよう」**	思 態	●	**●地図や地理情報システムについて，位置や範囲，縮尺などに着目して，目的や用途，内容，適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し，表現している。**［発言分析・記述分析・行動観察］

本時の指導計画

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入 15分	・既習事項の確認(復習) Google　Form で確認テストを行う ・領域の確認	・タブレットで結果を確認する。 個人で確認した後に全体で語句の確認や内容の確認をする。 ・領域に関しての理解ができているか，イメージを持てているかを確認する。	・前回の授業の内容を理解しているか。［知識］ ・ 領域について理解できているか，イメージすることができているか。［知識・技能］［思考・判断・表現］
	本時の課題　日本の地理的な特色はどういう所だろうか。また，なぜ領土問題が生じるのだろうか。		

展開1 10分	・PowerPoint を黒板に投影し，ワークの穴埋めをする。 ・日本の領域がどのように広がっているのか・特徴等を理解する。	・遅れている生徒がいないか適宜確認する。 ・日本の領域について理解できているかを確認する。	・日本の領域に関してどのような広がりや特徴があるのかを理解している。［知識］
展開2 20分	・Google Jamboard を用いて，その国が持つ領域が多いことによるメリットと領域があることによるデメリット(起きる問題等)を考える。	・生徒が Google Jamboard 使用 ・領域というものと資源や民族問題等を結びつけができているか確認する。	・積極的に活動に取り組めている。［主体性］ ・どのようなメリットがあるのか，問題点があるのか考察し表現できている。［思考・判断・表現］
まとめ 5分	・Google Form で気づいたことなど意見を提出する。	・全生徒が取り組めいているか机間巡視を行い確認する。	・領域について理解できている。また，領域の重要性に気づけている。［知識］ ・意欲的に取り組めたか。［主体性］ ・授業の中で新たな発見や疑問等がうまれた。［主体性］

・指導案４

地理歴史科・公民科（地理探究）学習指導案

宮崎県立高鍋高等学校　授業者　　栗山　誠吾

単元名	第１編　現代世界の系統地理的考察　第１章自然環境
単元の目標	・地形，気候，生態系などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や地球環境問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・地形，気候，生態系などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会条件とのかかわりなどに着目して主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的多角的に考察し，表現する。 ・地形，気候，生態系などについて，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に主体的に追究しようとする態度を養う。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地形，気候，生態系などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，地球環境問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解している。	・地形，気候，生態系などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然及び社会的条件とのかかわりなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的，多角的に考察し，表現している。	・自然環境についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる地理的事象発現の因果関係や諸課題を主体的に探求しようとしている。

指導と評価の計画

次	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
自然環境第二次	【第１章第２節のねらい】地球規模でみられる気温と降水量の分布・特徴と植生・土壌との関連を理解する。				
	【第１章第２節の問い】地球規模での気温と降水量はどのような分布や特徴また規模を持つのだろうか。 そしてそれらは植生や土壌とどのような関連を持つのだろうか。				
1	①【ねらい】気温と降水量の分布の特徴を理解する。				

	・気候要素，気候因子の関係性を学ぶ。 ・気温と気温分布などの地域的特性を学ぶ。 ・降水の発生要因と様式について学ぶ。		●		・気候特性の発現について大観的に理解し，地域的特性の因果関係を見出そうとしている。
2	②【ねらい】大気大循環と気候の関係を理解する。 ・大気大循環の模式図を利用して考える。 ・各気圧帯と恒常風の位置，名称を覚える。 ・気圧帯の移動と降水の関係性を考える。 ・モンスーン，局地風について学ぶ。		●	●	・各種名称と位置関係等を身につけている。 ・気圧帯と風系の関係を理解している。 ・モンスーンのメカニズムと影響を主体的に考えようとしている。
3	③【ねらい】水の循環と気温・水資源の関係性を理解する。 ・海流の基本原理や分布・流路について学ぶ。 ・海流によって生じる各種事象について学ぶ。		●		・主要な暖流，寒流の名称と流路，また流路周辺における影響，効果を理解している。 ・海洋と陸水の内訳や循環を理解している。
4	④【ねらい】植生と土壌の分布について理解する。 ・植生分布が温度帯と降水量によることを学ぶ。 ・成帯土壌の分布と間帯土壌の生成分布を学ぶ。		●		・熱帯から寒帯，湿潤地域と乾燥地域，また標高により植生分布に特徴があることを理解している。 ・間帯土壌の母岩等や分布を理解している。
自然環境 第三次	【第１章第3節のねらい】気候区の気温と降水量の特徴と自然環境の特徴，また人々の生活との関連を理解する。				
	【第１章第２節の問い】各気候区での気温と降水量はどのような季節配分や特徴また規模を持つのだろうか。 そしてそれらは人々の生活とどのような結びつきを持つのだろうか。				
1 2	①【ねらい】ケッペンの気候区分の原則を理解する。雨温図，ハイサーグラフの考え方を理解する。 ・気候区分の考え方と記号の意味を学ぶ。 ・気候区の分布状況を理解する。 ・雨温図，ハイサーグラフの見方考え方を学ぶ。		●		・気候区分の考え方と，その基準を理解している。 ・気候区がどのような分布を示すか理解している。 ・雨温図，ハイサーグラフに現れる気候区の特徴と判読ポイントを把握できている。
3	②【ねらい】熱帯と乾燥帯の特徴と人々の生活・文化の在り方を理解する。 ・熱帯気候３区分の特徴をつかむ。 ・熱帯気候地域の人々の生活・文化を知る。 ・雨温図，ハイサーグラフの判別を行う。 ・乾燥帯２区分の特徴をつかむ。 ・乾燥気候地域の人々の生活・文化を知る。 ・雨温図，ハイサーグラフから特徴をつかむ。		● ● ●		・熱帯気候区の景観上の特徴まで理解している。 ・熱帯気候区の生活，産業の特徴を理解している。 ・雨温図，ハイサーグラフの判別ができる。 （降水量など判別の詳細規準には言及しない） ・乾燥帯の分布と成因の概略を理解している。 ・乾燥気候区の生活，産業の特徴を理解している。 ・草原地域の分布，土壌について理解している。
4 5	③【ねらい】温帯，冷帯，寒帯等の特徴と人々の生活・文化の在り方を理解する。 ・温帯気候4区分の特徴をつかむ。 ・温帯気候地域の人々の生活・文化を知る。 ・雨温図，ハイサーグラフの判別を行う。 ＜冷帯，寒帯，高山気候について同様＞		● ●		・温帯気候区の景観上の特徴まで理解している。 ・温帯気候区の生活，産業の特徴を理解している。 ・雨温図，ハイサーグラフの判別ができる。 （ここでは気温，降水量等の基準を明確にする）
6 本時	④【ねらい】与えられた資料から気候や植生，土壌の存在する理由や地域的特徴を判定したり，新たな課題を解決する力を育成する。 ・緯度別降水量，蒸発量の模式図と砂漠気候の分布の一致とずれからその成因を考える。 ・砂漠気候区周辺の降水の時期を考える。 ・東岸気候と西岸気候の植生，土壌分布の違いの要因について考える。 ・西岸海洋性気候の分布の要因について考える。		● ● ●	● ●	・回帰線砂漠であることが読み取れる。 ・海岸砂漠と内陸砂漠，その要因が判断できる。 ・雨陰砂漠とその要因が判断できる。 ・BS，Cs地域の降水時期の違いが説明できる。 ・大陸東岸西岸の植生，土壌分布の違いの要因が説明できる。 ・Cfb気候の分布要因とその分界線が理解できる。 ・標高差による気候区分界が理解できる。

高鍋高等学校　第２学年　地理探究学習指導案

日　時	令和５年９月２９日（金）　第４校時	指導者	宮崎県立高鍋高等学校　　講師　栗山　誠吾
対象生徒	第２学年１・２組　地理探究選択生（7 名）		
単元の目標	地形や気候の成因，分布について覚えているだけの知識では把握できない地域の差異性や共通性について可視的なデータや新たな要素を考えることによってこれを理解し，新たな部分や分野への視点・視野の広がりの可能性を実感させ，主体的な学びに向かう意欲を育むこと。		

本時の指導計画

本時の課題　同じような地形的，気候条件でありながらその成因や発現状況が異なるのはどういう理由によるのだろうか。

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入 １０ 分	・地形，気候の基本的定義や名称について復習確認を行う。 ・本日の学習内容について説明する。	・全員がスピーディーに対応できるように留意する。 ・ワークシート配布	・当該分野の基礎知識が定着できているか。 （知識・理解）
展開 35 分	・砂漠の成因と分布 1)大気大循環図の（　　）への用語記入 2)緯度別降水量・蒸発量の図との関連性を考える。 3)2）を踏まえて砂漠気候の分布との合理性を考える。 4)海岸砂漠と海流の関係性を考える。 5)内陸・雨陰砂漠の要因について考える。 6)ステップの南北地域での降水時期についてその違いに気づかせる。 ・東岸気候と西岸気候 1)植生・土壌の分布図表を完成させる。寒流・暖流名を記入する。 2)同じ緯度帯での植生，土壌分布の違いに気づかせる。 3)植生，土壌分布の在り方は寒流，暖流などの気候因子や卓越風などによって規定されていくことに気づく。 ・西岸海洋性気候の分布 1)気候分布図を参考に北半球での西岸海洋性気候の分布地域を確認する。 2)北大西洋海流やアルプス山脈の存在を基本に分布の違いを考える。 3)アパラチア山脈地域に西岸海洋性気候が分布する理由を考える。	・乾燥気候に関わるところだけが対象になっている。 ・ヒントとなる素材を示しながら話し合いができるように進める。 ・高圧帯の南北移動との関係性が理解しやすくなるような指導。 ・ワークシートは縦型図を使用 ・ユーラシア大陸，アフリカ大陸の赤道以北を提示 ・ヒントとなる素材を示しながら話し合いができるように進める。 ・暖流と恒常風の存在をヒントとして示すが，極力生徒たち自身で結論を導き出せるよう留意。 ・時間があれば熱帯地域でのＣｗ気候にも触れる。	・基礎知識の確認 （知識・理解） ・乾燥気候発現の理由について思考判断が協力的に進められているか。 （思考・判断，主体性） ・ステップ気候，地中海性気候の降水 時期について主体的に取り組めるか。 （思考・判断，主体性） ・植生，土壌の名称と分布地域記入による基礎知識の確認。（知識・理解） ・植生，土壌分布の在り方について思考，判断が協力的に進められて　いるか。 （思考・判断，主体性） ・主体的な取り組みの中で一定の結論を見出すことができるか。 （思考・判断，主体性）
まとめ 5 分	・理解度の確認と自己評価	・生徒の取り組みを確認	・振り返りができているか。 ・主体的な取り組みができたか。（自己評価を含む）

○「教科横断的または探究的観点を取り入れた授業」（　公開授業 ②　）

・指導案５

地理歴史科・公民科（科目：地理探究）学習指導案

宮崎県立高鍋高等学校
授業者 ： 佐 伯 幸 治

単　元　名　：　農林水産業

内容のまとまり ： Ａ 現代世界の系統地理的考察 （2）資源 ，産業

１ 単元の目標

〇資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や資源・エネルギー，食糧問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解する。

〇資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会条件との関わりなどに着目して，「技術革新による各産業の地域生産や流通，消費の変容」などの主題を設定し，「世界各地で行われている各産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な地域開発の推進にはどのような取り組みが必要だろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現する。

〇資源・エネルギーや農業，工業について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

２ 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や資源・エネルギー，食糧問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解している。	資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会条件との関わりなどに着目して，「技術革新による各産業の地域生産や流通，消費の変容」などの主題を設定し「世界各地で行われている各産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な地域開発の推進にはどのような取り組みが必要だろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現している。	資源・エネルギーや農業，工業について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

３ 指導と評価の計画

内容のまとまり	小単元	各次の内容と配当時間
Ａ（2） 資源，産業 （29 時間）	①産業の発展と社会的分業 （1 時間）	第 1 次：産業革命後の世界はどう変化したのだろうか（1 時間）
	②農林水産業 （10 時間）	第 1 次：農業はどのような地域に立地し，その形態はどう変化してきたのだろうか（2 時間） 第 2 次：アグリビジネスはなぜ世界各地から農産物を集めるのだろうか（1 時間） 第 3 次：世界で農産物の流通が拡大しているのはなぜだろうか(3 時間) 第 4 次：持続可能な林業や水産業のためにどのような取り組みが必要だろうか(2 時間) 第 5 次：日本の農林水産業の変化は地域社会にどのような影響を及ぼすのだろうか(2 時間)
	③食料問題 （3 時間）	第 1 次：食料需給に地域的な偏りがあるのはなぜだろうか（1 時間） 第 2 次：食料問題を解決するためにはどのような取り組みが必要だろうか（2 時間）
	④エネルギーと鉱産資源 （3 時間）	第 1 次：石炭と石油の貿易量の比較してみよう（1 時間） 第 2 次：電力の安定供給確保に向けた取り組みについて（1 時間） 第 3 次：レアメタルの安定確保が難しいのはなぜだろうか(1 時間)
	⑤資源・エネルギー問題 （2 時間）	第 1 次：再生可能エネルギーの普及を妨げているものは何だろうか（1 時間） 第 2 次：日本の資源自給率を高めるために必要なものは何だろうか（1 時間）
	⑥工業の立地と工業地域の	第 1 次：繊維・鉄鋼・石油化学の立地の特徴について（1 時間）

	変容（7 時間）	第 2 次：自動車・ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ産業の立地と分業について（1 時間） 第 3 次：新しい技術は従来の工業をどう変えていくのだろうか(1 時間) 第 4 次：シリコンヴァレーからなぜ技術革新が誕生するのだろうか（2 時間） 第 5 次：日本の工業に未来はあるのだろうか(2 時間)
	⑦第三次産業 （3 時間）	第 1 次：情報通信業はなぜ集積するのだろうか。（2 時間） 第 2 次：医療・福祉産業には国や地域によってどのような違いがあるのだろうか。（1 時間）

（1）小単元の目標

〇農林水産業などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や農林水産業に関する問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解する。

〇農林水産業などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会条件との関わりなどに着目して，「技術革新による農林水産業の地域生産や流通，消費の変容」などの主題を設定し，「世界各地で行われている農林水産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な農林水産業の推進にはどのような取り組みが必要だろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現する。

〇農林水産業について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

（2）小単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
農林水産業の立地とその形態について地域性との関わりから把握するとともに，アグリビジネスの活動が国境を超えて産地と消費地とを結びつけていることを理解している。	農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて多面的・多角的に考察し，表現している。	農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて関心と課題意識を高め，意欲的に追究し，とらえようとしている。

（3）小単元の指導と評価の計画 （10 時間）

単元：農林水産業　（〇…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」）

【指導計画】 第1次：農業の立地と形態（世界のさまざまな農業地域）　第2次：グローバル化と農業地域の変容
第3次：拡大する世界の農産物流通　第4次：世界の林業・水産業　第5次：日本の農林水産業

【小単元を貫く問い】 **世界各地で行われている農林水産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な地域開発の推進にはどのような取り組みが必要だろうか。**

	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第1次 （2時間扱）	【ねらい】農業立地の成立要因や発展過程については自然条件，社会条件，3 つの変革との関わりから理解する。 【 問い 】**農業はどのような地域に立地し，その形態はどう変化してきたのだろうか。**				
	課題 a 「学習プロセスの振り返りシート（農林水産業用）」に記入する。 課題b ①農業の成立条件（自然条件，社会条件）について考察する。 ②農業の形態及び生産性（各種農業形態，土地生産性，労働生産性）について考察する。 ③どんな農業が適切か（特定の場所を設定し，その場所にあった農業を考える。）（1 時間） 課題c タイはどのようにして世界有数の米の輸出国になったのかを考察する。（1 時間）	●	● ● ● ●		●課題 a を考察する中で，既習内容を的確に活用することができる。 ●農業をするために必要な条件を，見いだしたり，予想したりしている。 ●3 つの変革との関わりから農業形態について，成立や展開を確認し，土地生産性，労働生産性の違いをまとめられる。 ●条件や目的から適切な農業形態について，考察でき，他の生徒と意見を共有できる。 ●タイの穀物増産を目指した「緑の革命」の功罪にについて考察する。
第2次 （1時間扱）	【ねらい】現代農業の特色についてフードシステムの観点から把握するとともに，グローバル化にともなう農業地域の変容についてアメリカ，アジアを例に理解する。 【 問い 】**アグリビジネスはなぜ世界各地から農産物を集めるのだろうか。**				
	課題d 現代農業の特色についてフ	●			●主題図や模式図，グラフや写真を用いて，現代

	ードシステムの観点から考察するとともに，グローバル化にともなう農業地域の変容について考察する。（アグリビジネスとは何か。） 課題e 現代農業の特色についてフードシステムの観点から考察するとともに，グローバル化にともなう農業地域の変容について考察する。（なぜ中国において日本向けの輸出産地が複数の地域にまたがって分布しているのだろうか。）		○		農業の特色についてフードシステムの観点から把握するとともに，グローバル化にともなう農業地域の変容についてアメリカのアグリビジネスを例に理解している。 ○現代農業の特色についてフードシステムの観点から，またグローバル化にともなう農業地域の変容についてアジア（日本と中国）の輸出野菜を例にしながら多面的・多角的に考察している。
第3次 （3時間扱）	【ねらい】世界の農産物流通の特徴について小麦，米，畜産物，野菜を例に理解する。 **【 問い 】世界で農産物の流通が拡大しているのはなぜだろうか。**				
	課題 f 世界の農産物流通の特徴について小麦と米の生産と輸出，野菜と果実の輸出額と増加率を例に理解する。 課題g 世界の農産物流通の特徴について，『なぜ南太平洋の国々で日本向けの「カボチャ」が生産されているのだろうか。』を例に考察させる。 （課題 f ・g で１時間） 課題h 世界の畜産物貿易について，『和牛肉（宮崎牛肉）の価格は何故，高いのだろうか（１時間），また2035 年の価格はどうなっているのだろうか。（1 時間）』を例に考察させる。（マンダラートやキーワードマッピング活用）（計 2 時間）	●	● ●		●主題図や模式図，グラフや写真を用いて，世界の農産物流通の特徴について小麦，米，野菜，果実を例にアフリカや中南米で野菜の輸出量が増えていることを理解している。 ●端境期を利用としたアフリカや中南米で野菜の輸出量の増加を理解しつつ，課題が見られる南太平洋の特徴や地域の結びつきなどに着目し，日本向けのカボチャ生産の実態（要因）やその方向性について多面的・多角的に考察している。 ●既存の知識を活用し和牛肉の成立条件やその生産性，農業形態を理解しつつ，主題図や模式図，グラフや写真を用いて，和牛肉の取り巻く環境の特徴やその関連性等に着目し，課題の要因やその解決の方向性について多面的・多角的に考察している。（地理的見方・考え方が深まっている。）
第4次 （2時間扱）	【ねらい】森林資源の分布と役割ならびに林業の現状，水産資源の分布ならびに水産物貿易・保護の現状について理解する。 **【 問い 】持続可能な林業や水産業のためにどのような取り組みが必要だろうか。**				
	課題Ｉ 森林資源の分布と役割ならびに林業の現状，水産資源の分布ならびに水産物貿易・保護の現状について理解させる。（1 時間） 課題J 林業都市，水産都市を事例として取り上げ，「世界の林業，水産業を取り巻く未来は明るいのだろうか。」について考察する。（1 時間）	●	●		●主題図や模式図，グラフを用いて，森林資源の分布と役割ならびに林業の現状，水産資源の分布ならびに水産物貿易・保護の現状について理解している。 ●場所の特徴や場所の結びつきなどに着目し，技術革新などと関連付けて漁獲量数の推移や，環境保護，市場のニーズの変化を多面的・多角的に考察している。
第5次 （2時間扱）	【ねらい】日本の農林水産業の特徴について把握するとともに，変化をもたらす社会的背景について国内外の動向との関わりから理解する。 **【 問い 】日本の農林水産業の変化は地域社会にどのような影響をおよぼすのだろうか。**				
	課題 K RESASなどを活用して，日本全体やいくつかの地域の農林水産物の生産量や特性などを調べ，ワークシートにまとめる。貿易の自由化が進むなかで，日本の農林水産業が抱える問題を解決するにはどうしたらよいか考察する。（2 時間） 課題 L これまでの学習全体を振り返り，考えたことを「学習プロセスの振り返りシート」に記入する。	●	○ ●		●RESASを使って，農林水産業に関する情報を適切に収集している。 ○日本の農林水産業の特徴や変化をもたらす社会的背景について国内外の動向との関わりから考察しまとめている。 ●農林水産業について，さらに調べたいことや，よく分からなかったことを整理し，これからの学習に生かそうとするとともに，C（1）での持続可能な国土像の探究に意欲的に取り組もうとしている。

4　本時の学習指導案

（1）　授業者：佐　伯　幸　治

（2）　日　　時：令和5年11月16日（木）3校時

（3）　場　　所：宮崎県立高鍋高等学校　2年3組教室

（4）　対象クラス：2年6組　地理選択生（8名）

（5）　本時の目標

・牛肉生産について，その生産性や農業形態について，多面的・多角的に理解する。

・2035 年の和牛肉（宮崎牛肉）の価格について，その取り巻く環境（ガソリン車の新車販売禁止，日本の総人口に占める後期高齢者数，技術革新よる失業率の増加予想，食料消費のニーズの変化　等〕から，その要因について考察しまとめる。

（6）本時の指導計画

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価観点・評価方法
導入	・アイスブレイク SQ1 連想ゲーム（ESD）「私は何！？」「端境期」のワードで実施。 ・前回，予想した課題 hに対する自分の見通し（仮説）を確認する。	・生徒同士が協力して楽しみながら，地理の語句や本時のキーワードについて再確認し，本時の課題に意欲的に取り組めるようにする。 SA1 対話から課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取れるような学びの姿勢を高められるようアドバイスなどの問いかけに配慮する。	・周囲と意見を出し合いながら，「端境期」のワードにたどり着くか。 知識・技能 思考力・判断力・表現力
本時の課題（MQ） 課題 h（後半）　2035 年,和牛肉（宮崎牛肉）の価格はどうなっているのだろうか 【　課題 hの計 2 時間のうち 1 時間　2／2　】			
展開	STEP5　SQ2　2035 年の日本や世界は，どのような未来になっているだろうか。 ・自分や自分以外の気づきや意見，調べたことについて考察する。（多面的多角的に諸事象や地域を様々なスケールから捉える） STEP6　SQ3　『和牛肉の価格』を決める重要なキーワードを8つから更に72つに増やし，より詳細なマンダラートを作成しよう。 STEP7　SQ4　STEP6　のマンダラートを参考にキーワードマッピングを作成しよう。 ・jamboard 等で意見の集約・共有する。 ・課題 h：「和牛肉（宮崎牛肉）の価格は何故，高いのだろうか，また 2035 年の価格はどうなっているのだろうか。」について，自分の考えをまとめる。	SA2　・未来（2035 年）の産業（農林水産業）等を推測する際，地理的見方・考え方を軸に考察することが大事だと強調する。 ・作業途中で「敢えて 2035 年に限定にしていることは何故か」と言及する。（2035 年問題：ガソリン車の新車販売禁止，日本の総人口に占める後期高齢者数 20%越，技術革新よる失業率の増加予想等） ・PC 活用を促す。（個別最適な学び） SA3　・探究的な要領（マンダラート）を用いて，『和牛肉の価格』を決める要因について，学んだことをビジュアル的（分かりやすく）にまとめる。 SA4　・探究的な要領（キーワードマッピング）を用いて，選んだキーワードがそれぞれどのようにつながっているかまとめる。 ・つながりを説明するコメントを簡潔に記載させる。（ここまで選んだキーワードがそれぞれどのようにつながっているか理解させる。） ・PC 活用を促す。（個別最適な学び） ・ICT を活用し意見の収集及び共有することで，多面的・多角的考察ができるようにする。	・資料等を活用して，2035 年問題に言及し推論されているか。また周囲と意見を出し合いながら，他者の考えを読み取り，分析し，まとめているか。 知識・技能 思考力・判断力・表現力 ・STEP5でまとめた考察をもとに価格を決める要因について自分の中で整理し表現できているか 思考力・判断力・表現力 ・STEP6でまとめた考察をもとに価格を決める要因について，図式化して整理したものを自分の言葉で表現できるか。 ・周囲と意見を交わすことを通じて，自分の考えを深めようとしているか。 思考力・判断力・表現力
まとめ	・【第3次：問い】世界で農産物の流通が拡大しているのはなぜだろうか ・「学習プロセスの振り返りシート」に記入する。	・第3次のまとめとして，今までのワークシートや資料等を活用して，まとめるよう諭す。	・技術革新，グローバル化，ニーズに着目し自分の言葉で表現できるか。 思考力・判断力・表現力 主体的に学習に取り組む態度

・指導案６

高鍋高等学校　第２学年　地理歴史科学習指導案

日　時	令和５年11月７日（火）　第４校時	指導者	宮崎県立高鍋高等学校　教諭　尾前　千怜
対象生徒	第２学年３組１３名，６組２１名　（男子１３名，女子２１名）		
科目名	日本史探究	使用教科書	詳説　日本史（山川出版社）
単元名	第Ⅱ部　中世　第６章　武家政権の成立		
単元の目標	・武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解するとともに，中世の特色を示す歴史資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身につけている。 ・公武関係の変化，宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して，中世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する力を養う。 ・中世の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。		

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・公武関係の変化を踏まえ，武家政権の成立と展開，武家政権の伸張を理解している。 知１ ・宋・元などユーラシアとの交流と国内政治や経済，文化などへの影響を踏まえ，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，社会や文化の特色を理解している。 知２ ・中世の特色を示す適切な歴史資料を基に，史料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けている。 技能	・公武関係の変化に着目して，中世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 思１ ・宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して，中世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 思２ ・歴史資料の特性を踏まえ，資料を通して読み取れる情報から，中世の特色について多面的・多角的に考察し，仮説を表現している。 思３	・中世の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野に，前後の時代との繋がりを見出したり，課題を主体的に追究しようとしたりしている。 態度

指導と評価の計画　（○・・・「評定に用いる評価」，●・・・「学習改善につなげる評価」）

本時（　６　）時間目　／　１１時間

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準等
１	①【ねらい】鎌倉時代の権力主体や社会の変化に着目して，時代を通観する問いに答えるために何がわかればよいか考察し，問いの形に表現する。 ［小単元１のMQ］鎌倉時代の権力主体について，問いを表現してみよう。			

	［時代を通観する問い］「中世は，なぜ権力を持つ人や集団が複数いたり，移り変わったりしたのだろうか。」			
	課題a　これまでの学習や中学校の学習を踏まえ，鎌倉時代とはどのような時代か確認し，武家政権の成立とそれに伴う社会の変化について，疑問に思ったことや推測したことなどをもとに問いの形に表現する。	思 態	○	○時代を通観する問いの解決に向けて，既習事項から鎌倉時代の特色を考察し，問いを表現している。 思1（発言分析・記述分析） ○単元全体の見通しを持って学習に取り組もうとしている。 態度（行動観察・記述分析）
	［単元全体のMQ］「鎌倉時代，武士はどのように権力を拡大したのだろうか。また，それは社会にどのような影響を与えたのだろうか。」			
2 3 4	②【ねらい】源平の争乱から幕府成立までの過程や鎌倉幕府の支配機構を理解するとともに，日本がいかにして支配されていたのか武家政権の在り方や公武関係に着目して考察する。 ［小単元２のMQ］「鎌倉幕府はどのように成立し，支配したのだろうか。」			
	課題a「源平の争乱でなぜ源氏は勝利することができたのだろうか。」について，源平の争乱の流れを理解したうえで，源氏の勝利の背景を土地支配や朝廷の動きと関連付けながら考察する。	知 思	●	●源平の争乱の流れについて理解し，前単元の学習内容（土地支配）と結びつけたり，年表から課題に関連しそうな事項を選択したりして，課題 a を考察し，表現している。 知1　思1［発言分析・記述分析］
	課題b　「鎌倉幕府は何をもって成立したといえるのだろうか。」のような問いを立てて，室町幕府・江戸幕府との比較を通して幕府とは何か定義づけし，鎌倉幕府成立がいつか，何をもって成立したといえるか考察し，検討する。	思	○	○中学校での学習と結びつけながら幕府とは何か定義づけしたうえで，課題 b に対する答えを根拠をもって示すことができる。　技能　思1［行動観察・記述分析］
	課題c「幕府成立初期から，幕府は全国を支配することができたのだろうか。」のような問いから，封建制度による支配と，幕府と朝廷による公武二元支配の実態を踏まえ，権力主体が複数存在していたことを理解する。	思 態	●	●課題 c を通して，時代を通観する問いに対して考察している。　思1　態度［発言分析・記述分析］
	課題d　鎌倉幕府成立と支配について，各課題を踏まえてまとめる。	知 思	○	○源平の争乱から幕府成立までの過程や鎌倉幕府の支配機構を理解している。　知1［記述分析］ ○日本がいかにして支配されていたのか武家政権の在り方や公武関係に着目して考察している。思1［記述分析］
5 6	③【ねらい】承久の乱を契機とした公武関係の明確な変化に着目し，武家政権の発展・伸張，武士の生活や土地支配など社会にもたらした変化を理解し，その背景を考察する。 ［小単元３のMQ］「承久の乱によって，社会はどのように変化したのだろうか。」			
	課題a「承久の乱はなぜ起きたのだろうか。」について，承久の乱以前の幕府の政治の在り方や朝廷の動きから理解する。	知	●	●課題 a を通して，北条氏の台頭や朝廷の復権に向けての動きを理解している。　知1　［発言分析］
	課題b「承久の乱によって，幕府の支配体制はどのように変化したのだろうか。」のような問いを立てて，御成敗式目制定や支配機構・支配体制の変化を理解し，その背景を考察する。	技 思	○	○史料から承久の乱後の支配体制を読み取っている。　技能　［記述分析］ ○鎌倉幕府の支配体制の変化と承久の乱前後の社会の様子の関連を考察している。　思1［記述分析・行動観察］
	課題c　承久の乱による幕府の支配の変化について，各課題を踏まえてまとめる。	知 思	○	○承久の乱前後の幕府の支配の在り方の変化を理解している。　知1［記述分析］ ○承久の乱前後の幕府の支配の在り方と社会の様子を関連

				付けて考察している。 思１［記述分析］
7 8	④【ねらい】宋・元などユーラシアとの交流が与えた国内政治や経済，産業などへの影響を踏まえ，幕府政治と社会の変化を理解し，幕府衰退の理由を考察する。 ［小単元４のMQ］「鎌倉幕府の衰退とモンゴル襲来はどのように関係するのだろうか。」			
	課題ａ「モンゴル襲来によって，幕府政治はどのように変化したのだろうか。」について，モンゴル襲来後の幕府政治の変化を理解し，幕府衰退との関連を考察する。 課題ｂ「鎌倉後期の産業や経済の変化は，幕府政治とどのように関係するのだろうか。」のような問いを立てて，絵画や史料などを用いて鎌倉後期の社会の変化を理解し，幕府の衰退の関連を考察する。 課題ｃ　宋･元などとの交流がもたらした幕府政治と社会の変化と，幕府衰退の理由について，各課題を踏まえてまとめる。	知思 技思 知思	● ○ ○	●課題ａを通して，幕府衰退との関連を考察している。 知２ 思２［発言分析・行動観察］ ○諸資料から鎌倉後期の社会の変化を読み取っている。 技能［発言分析・記述分析］ ○社会の変化と幕府衰退を相互に結びつけて考察している。 思２ 思３［発言分析・記述分析］ ○宋・元などとの交流が与えた幕府政治や社会への影響を理解している。 知２［記述分析］ ○幕府衰退と宋･元などとの交流の関連について，幕府政治や社会の影響をもとに考察している。思２［記述分析］
9 1 0	⑤【ねらい】鎌倉文化について，幕府政治や社会の変化，宋・元などのユーラシアとの交流との関連を踏まえて理解する。 ［小単元５のMQ］「鎌倉文化にはどのような特色が見られるだろうか。」			
	課題ａ　鎌倉新仏教の特色について，幕府政治や社会の動向と関連付けながら理解する。 課題ｂ　鎌倉時代の文学や美術について，幕府政治や社会の動向と関連付けながら理解する。 課題ｃ　鎌倉文化の特色について，幕府政治や社会の動向と結びつけながら，各課題を踏まえてまとめる。	知 知 思態	● ● ○	●課題ａについて，幕府政治や社会の動向と関連付けながら鎌倉新仏教の特色を理解している。 知２［発言分析・記述分析］ ●課題ｂについて，幕府政治や社会の動向と関連付けながら鎌倉時代の文学や美術の特色を理解している。 知２［発言分析・記述分析］ ○鎌倉時代の特色と関連付けながら鎌倉文化の特色を見出そうとしているか。 思３ 態度［記述分析］
1 1	単元のまとめ ［単元全体のMQ］「鎌倉時代，武士はどのように権力を拡大したのだろうか。また，それは社会にどのような影響を与えたのだろうか。」			
	・単元全体のMQについて，本単元での学習を振り返って考察し，その結果を表現する。 ・単元のふりかえりを行う。	思 知思態	○ ○	○単元全体の問いについて，学習内容を相互に関連付けながら考察し，説明・表現している。 思１ 思２［記述分析］ ○単元の目標を達成するとともに，自己の学習を振り返り，次の学習につなげようとしている。 知識 思考 態度［記述分析］

本時の学習指導

本時の 学習目標	・社会情勢や承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して，御成敗式目制定や執権政治の確立を理解する。 ・鎌倉幕府の支配体制の変化と承久の乱前後の社会の様子の関連について，諸資料から的確に情報を読み取り，考察している。

本時の指導展開

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法

	本時の学習課題（MQ） 「承久の乱によって，社会はどのように変化したのだろうか。」		
導入 8分	・前時までの学習内容である北条氏の台頭から承久の乱，武士の土地支配について振り返る ・前時に自分たちが出した問いをグループで確認し，答えを予想して学習の見通しを持つ。	・本時の問いについて考える上で必要となる知識が身についているか確認する。 ・どのような道筋で考えたり，資料や教材を使ったりすれば答えが出せそうか，などの問いかけをして，見通しを持って学習に取り組めるようにする。	・前時までの学習内容を理解している。　［知識］〈発言分析〉 ・問いの答えを予想しつつ，見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ［態度］〈発言分析・行動観察〉
展開Ⅰ 20分	・問いについて，諸資料を読み取ったことをもとに考察し，表現する。 ＊前時に立てる問い次第	・資料から読み取ったこと，既習事項とのつながり・そこから導いた答えがわかるように表現できるようにする。	・諸資料から，問いにつながる情報を適切に読み取り，承久の乱前の社会情勢と関連付けて考察し，表現している。 ［技能］［思１］［思３］〈記述分析〉
展開Ⅱ 12分	・問いについて，考察し，表現したことを全体で共有する。	・各グループが考察したことを見て，思考の流れを理解したり，諸資料や既習事項からその答えが本当に導かれるのか批判的に見たりできるようにする。	・他者の考察したことを批判的に見たり，それに対して自分の考えを持ち，他者との意見の相違を認め合ったりしている。 ［態度］〈発言分析・行動観察〉
まとめ 10分	・それぞれの問いと答えを踏まえ，承久の乱後の社会の変化について確認する。 （・本時の学習課題に対するまとめ・振り返りを書き，Google classroomで提出する。）	・それぞれの問いと答えを踏まえ，承久の乱後の社会の変化について全体で共通理解をはかる。 ・自分たちで考察した問いとその答えと，本時の学習課題とのつながりを感じられるようにする。 ・自分たちで考察した問いと答えを踏まえて，まとめを表現できるようにする。	・歴史的な事象は様々な要素が複雑に関係して起きたことであると理解している。 ［知識］〈発言分析〉 ・学習内容を自分で整理し，表現している。　［思１］〈記述分析〉

・指導案７

高鍋高等学校　地理歴史科公民科学習指導案

日　　時	2023年11月7日（火）　第4校時	指 導 者	地歴公民科　教諭　川﨑　育夫
対象生徒	第1学年5組（男子13名　女子9名　計22名）		
科 目 名	歴史総合	使用教科書	明解　歴史総合（帝国書院）
単 元 名	第3部　国際秩序の変化や大衆化と私たち　第1章　第一次世界大戦と日本の対応 第2項　総力戦となった第一次世界大戦		

単元の目標	1-1　第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 1-2　大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及とマスメディアの発達などを基に，大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 2-1　第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の家計や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現する。 2-2　第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し，表現する。

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 ・第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。	・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の家計や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し，表現している。	・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

指導と評価の計画　　○…「評定に用いる評価」　●…「学習改善に繋げる評価」

本時（　2　）時間／　3時間

単元名	時間	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
	【ねらい】第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，第一次世界大戦を理解する。 課題「第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制はどのように特徴付けられるのだろうか」				
	1	【ねらい】各国の軍事力対比表や1890年を境としたヨーロッパ諸国間の関係図等の資料を基に，国際的緊張の高まりに気付く。 課題「ドイツとロシアの対外政策の変更は，どのような対立を生んだのだろうか。」				

第一次世界大戦と大衆社会		・軍備増強に関する資料から，共通項や特異点を読み取り，その背景にあるものを確認する。	●	●		●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。 ●ドイツに着目して，資料だけではなく，地理的観点からも窺える特異な部分を読み取るなど，多角的に考察し，表現している。
		・1890 年を境としたヨーロッパ国際関係の違いを読み取り，その内容を教科書本文で確認する。	● ●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。 ●資料間の変化は本文でどう記載されているのかを的確に表現している。
		・ドイツとロシアの対外政策の変更がどのような対立を生んだのか，資料を活用して考察し，その結果を表現する。	○	○		○バルカン半島で生じた国際的緊張に着目して，課題について考察し，表現している。 ○「バルカンはヨーロッパの火薬庫」という言葉の意味を理解している。
	1 本時	【ねらい】前時に学んだ当時の国際関係と教科書本文を読み込んだ上で，アメリカ合衆国が何故中立を破ったのかを考える。また，総力戦の真の意味に気付く。 課題「第一次世界大戦」という表現に込められた思いを考える。				
		・前時に作成した，当時の国際関係図を再利用して，本文記載の具体的関係性を確認する。	●			●教科書本文・注釈から学習につながる情報を適切に読み取っている。
		・中立国アメリカ合衆国の動向を確認する。		○		○戦後のアメリカ合衆国の地位を義務制で学んだ範囲で思い出し，そこからアメリカ合衆国の思惑を多面的に表現している。
		・総力戦の意味を教科書本文より読み取る。	●			●戦闘員の役割はいうまでもなく，非戦闘員の果たした役割について，適切に読み取っている。
		・第一次世界大戦が第一次世界大戦と呼ばれる所以を表現する。		○		○この戦争が初めての事柄を総合して捉えて，そこから導き出される人類の願いにまで踏み込む。
	1	【ねらい】ロシア帝国がソヴィエト社会主義共和国連邦となっていく過程を国内問題，対外的問題それぞれの観点から考察し表現することで，ロシア革命を理解する。 課題どのようにして，ロシアで社会主義政権が誕生していったのだろうか。また，この誕生が他の国にどのような影響を与えたのだろうか。				
		・レーニンに関する資料を読み取り，そこで言わんとしていることを考察し，表現する。		●		●教科書イラストのイイタイことを適切に読み取り，それを自分の言葉で表現している。
		・レーニンが国内向けに行ったことと対外的に行ったことを教科書本文の読み取りを通して整理する。	●	●		●教科書本文から，授業内容に繋がる情報を適切に読み取っている。 ●国内向けの政策であるか対外的なそれであるのかを適切にｶﾃｺﾞﾗｲｽﾞズしている。
		・ソヴィエト社会主義共和国連邦の成立が他国に与えた影響を確認する。			○	○現代にまで繋がっているような事柄が何かあるのかを考察し，現在の自分自身を取り巻く環境に思いを巡らせて，過去と現在とは繋がっていることを理解している。

		＜単元のまとめと振り返り＞ 人々が総力戦に協力したのは，期待からだろうか，義務からだろうか。第一次世界大戦に参加した国のうちの男性，女性，植民地の人々など当時の誰か一人の立場から，あなたの考えを説明しよう。

本時の学習指導

本時の 学習目標	・第一次世界大戦勃発当時の国際関係を再確認し，その関係と第一次世界大戦での関係の相違点に着目して，理解を深める。 ・総力戦とは何なのかを理解し，その必然性，それを可能としたもの，結果として生み出したことは何かをこれまでの授業内容と今回のそれから考察し，表現する。

本時の指導展開

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入 10分	・直近の戦争の事例とこの戦争とを呼称の観点から相違点を確認する。 ・「世界」とは何を指して「世界」なのかを推し量る。	・義務制で既習の学習内容を板書整理することで比較しやすいように工夫する。 ・最適解を求めるのではなく，生徒が出した解答を大事にしながら展開する。	・従来の二国間紛争ではなく，多国間紛争となっていることを理解している。 ・間違っていても構わないので，積極的に自分の考えを言語化出来る。
展開 1 20分	・前時作成した当時の国際関係図を確認した上で，教科書本文の内容と照会して3色に色分けする。 ・3色目に該当するアメリカ合衆国について，その後の様子を教科書から読み取る。	・カラーリングの最初はスクリーンに投影して作業の進め方を統一する。 ・第一次世界大戦の詳細な流れや事柄には触れず，アメリカ合衆国にのみ着目して，その後の影響を教科書の範囲を逸脱して考えられるようにする。	・適切な色分けをすることが出来ている。 ・3色目の国として，イタリアとアメリカ合衆国を挙げることが出来る。 ・世界大戦当初のアメリカ合衆国の立場と戦争終期の立場の相違を表現することが出来る。 ・教科書新聞資料の見出しを見て，何か疑問を生じさせることが出来る。
展開 2 15分	・「総力戦」という言葉から想像することを言語化する。 ・「総力戦」の負の結果としての「非戦闘員の多大な犠牲」について考察する。	・解答の精緻は求めない。生徒個々人がイメージ化出来るようにする。 ・新兵器の一つである飛行機をキーワードに多面的に考察出来るようにする。 ・女性工場労働者が増えたことによる負の部分を，①加害者・被害者の両面から考察出来るようにする。②付随した問題を家庭の観点から考察出来るようにする。	・自分のイメージしたことを言葉に出来る。 ・飛行機の持つ役割を理解している。 ・当時の女性が担わされた社会的役割について理解している。 ・世界大戦という言葉の付加価値を理解している。
まとめ 5分	・「第一次世界大戦」という表現に込められた思いを考える。	・改めて，これまでの戦争との相違点を考えられるようにすると同時に，そこから導き出された結論を既習の内容から推察出来るようにする。	・戦争死傷者数の圧倒的多さを理解している。 ・戦争が産み出すものを自分の言葉で表現出来る。

・指導案８

高鍋高等学校　第２学年　公共学習指導案

日　時	令和５年１１月７日（火）　第４校時	指導者	宮崎県立高鍋高等学校　山本　一夫
対象生徒	第２学年５組（男子８名，女子９名）		
科目名	公共	使用教科書	第一学習社　高等学校　公共
単元名	第２編　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち　第１章法的な主体となる私たち		
単元の目標	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて，現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し，これまでに学習した「公共の扉」で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用出来るようになる。そして，人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，他者と協働して主題を追究したり解決したりする学習活動を通して，人間としての在り方生き方についての理解を深めつつ，法，政治及び経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な知識及び技能，思考力，判断力，表現力等を身に付ける。 法や規範の意義及び役割，多様な契約及び消費者の権利と責任，司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を基に，憲法の下，適正な手続きにより，各人の意見や利害を公平・公正に調整し，社会秩序が形成，維持されることを理解する。		

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
法や規範の意義及び役割，多様な契約及び消費者の権利と責任，司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解すること。	法や規範の意義・政治参加と公正な世論の形成，地方自治・職業選択・雇用と労働問題などの事項について，法，政治及び経済などの側面を関連させ，自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現すること。	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する事に向けて，現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し，幸福，正義，公正などに着目しながら，他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動。

指導と評価の計画　　本時（　4　）時間目　／　7時間　　（○…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準等
1	①　【ねらい】法にはどのような機能があるのか理解する。			
	・ルールを定めるときには，どのようなことに配慮する必要があるのだろうか。	知	●	●法の機能についてどのようなものがあるか。またルールを評価する三つの考え方を理解する。［発言分析・記述分析］
	[学習課題：単元全体に関わる問い]「人々が対等な関係にない場合，国家や法には，どのようなことが求められるのか」			
2 3	②　【ねらい】公共の福祉とは，どのような原理であるか理解する。 【学習課題】基本的人権は法とどのようにかかわっているのか。			
	・基本的人権は，国家や法律が与えたものではなく自由で平等な社会を保障するために，個人の当然の権利として認められていることを理解する。	知	●	●どのような基本的人権が保障されているのか確認する。［発言分析・記述分析］
	・公共の福祉について考える。	思	○	○公共の福祉により基本的人権が制限されるということを理解する。［発言分析・記述分析］
4 5	③　【ねらい】道徳・宗教・法について理解し，それらが制限を受けるケースについて理解する。 【学習課題】法と道徳の違いについて考える。			
	・社会規範としての法と道徳と宗教について具体的名ケースを把握する。	思	●	●社会規範としての道徳と宗教と法について理解する。［発言分析・記述分析］
	・政教分離の原則について理解する。	思	●	●政教分離の原則につて理解する。［発言分析・記述分析］
	・なぜ，表現の自由も公共の福祉によって制限を受けるのか考える。	知	●	●公共の福祉によって制限を受ける具体的な例を考える。［記述分析］
6 7	④　【ねらい】法をよりよく変えていくために必要な考え方を理解する。 【学習課題】社会権や新しい人権を実現するしくみについて理解する。			
	・参政権や国務請求権が，基本的人権として保障されている理由について考える。	知	●	●国務請求権について理解する。そしてなぜ基本的人権として保障されているのか理解する。［発言分析・記述分析］
	・新しい人権が主張されるようになった背景にはどのような社会の変化があったのか考える。	知	●	●新しい人権が主張されるようになった背景について考える。［発言分析］
	・社会権・環境権・知る権利・プライバシーの権利・自己決定権について理解する。	思	○	○新しい人権について，それぞれの権利について過去に争われた訴訟を調べることにより，より具体的に身近に考える。［発言分析・記述分析］

本時の指導計画

段階	具体的な内容・活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入 １０ 分	・既習事項の確認(復習) プリントを配布して実施する。 ・「罪刑法定主義」と「公共の福祉」「国民の三大義務」について，きちんと定着しているか確認する。	・出来なかった部分について補強する。 個人で確認した後に全体で語句の確認や内容の確認をする。 ・ペアで話し合いがうまくできているか確認する。 ・「罪刑法定主義」と「公共の福祉」については丁寧に説明する。	・前回の授業の内容を理解しているか。［知識］ ・「罪刑法定主義」「公共の福祉」等について，自分の言葉で表現出来る。 ［思考力・判断力・表現力］［主体性］
	本時の課題 ・表現の自由も公共の福祉によって制限される事を理解する。 ・社会的状況の変化によって，法律も変化していくことを理解する。（性同一性障害特例法など）		
展開 １ ２０ 分	・ヘイトスピーチについて，どのようなものかを映像から理解する。 ・精神的自由にはどのようなものがあるか調べる。 ・政教分離の原則について学習する。 ・経済的自由にはどのようなものがあるか考える。 ・「法は最小限の道徳」という言葉について「法の支配」から考える。	・映像を通してどんなことを感じたか数人に聞いてみる。 ・精神的自由と経済的自由について，どのようなものがあるのか各生徒が記入出来ているか確認する。 ・法の支配とはいうものの，憲法で思想・良心の自由や信教の自由が保障されていることからもわかるように，「法には限界がある」ということにも気づかせる。	・表現の自由とヘイトスピーチとの関係について自分言葉で表現できるか。 ［理解］ ・政教分離の原則や精神的・経済的自由の詳細を理解する。
展開 ２ １５ 分	・「法の下の平等・差別解消にむけて」の内容から，差別をしない，させない，許さない社会の実現について学習する。 ・我が国，最初の違憲判決となった「尊属殺人重罰規定違憲訴訟」について考える。 ・教科書に紹介されている「性同一性障害者特例法」の性別の変更には現在，手術が必要という内容について，どう思うか。	・人間は過去から多くの差別を繰り返してきた。それによって多くの人命が奪われ，苦しい思いをしてきたことを考えさせる。 ・差別の根源はどこにあるのか。 ・「尊属殺人」を簡単に説明する。 ・様々な法律が，自体と共に変化していくことについて考える。	・差別の根源とは何なのかという問いに対して，積極的に考察しているか。 ［主体性］ ・どのような解決策があるか考察し表現できている。［思考・判断・表現］
まとめ ５ 分	・授業内容を振り返る。	・全生徒が取り組めいているか机間巡視を行い確認する。	・振り返りができている。［理解］ ・主体的に取り組めたか。［主体性］